

関係者限り

# 主に福井県の住民が利用する 京都府内の避難退域時検査場所の追加候補地 について（あやべ球場）

内閣府政策統括官(原子力防災)付  
広域的な原子力災害に関するWG(福井エリア)  
高浜地域分科会

# 検討対象の避難退域時検査場所

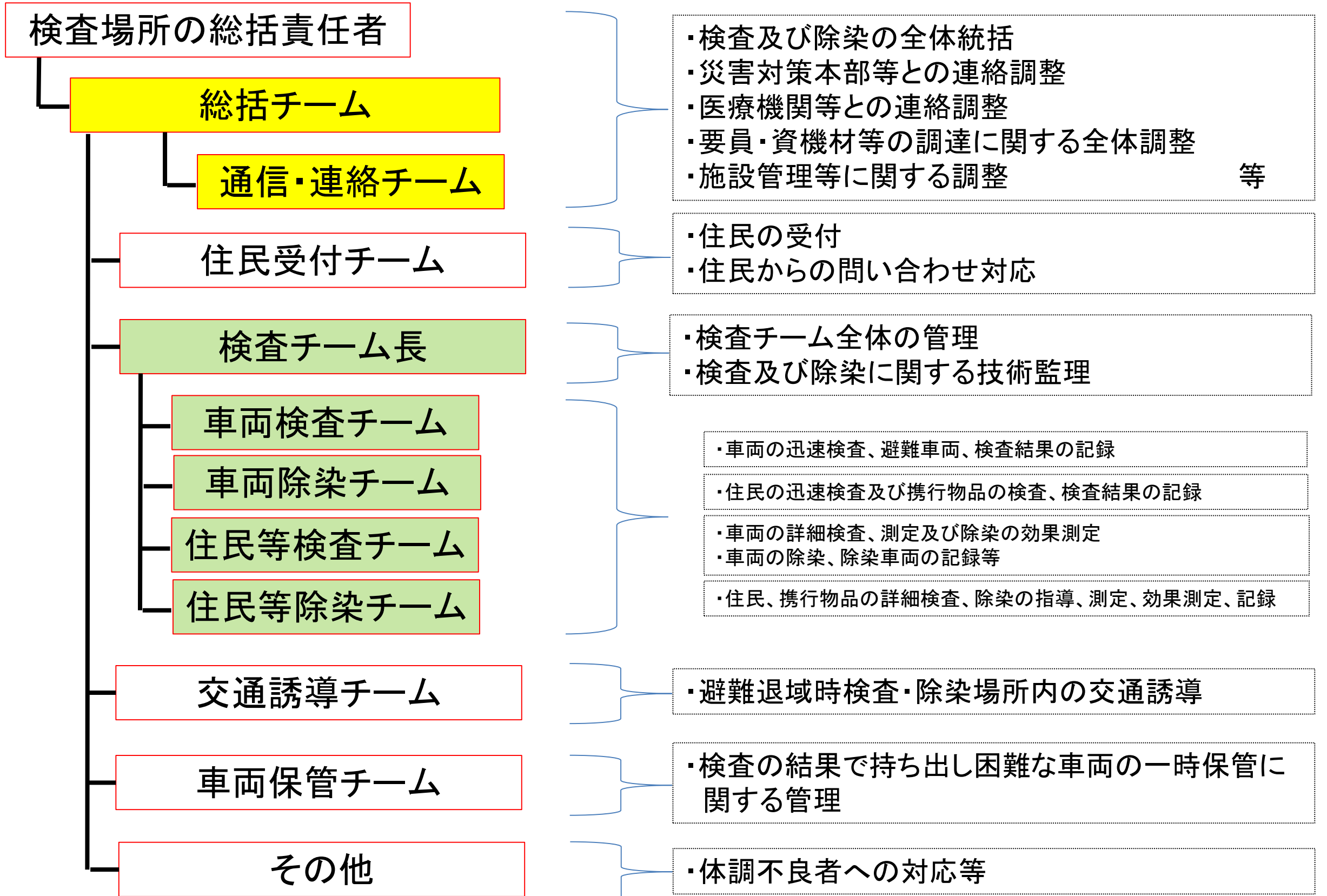
福井県の住民避難のために利用する京都府内の避難退域時検査場所候補地の概要は下記のとおり。

検査場所	所在地	避難元市町	検査場所の想定対応能力 (追加検討イメージ: 詳細は次頁以降)	総流入 予測台数	ピーク時の 流入予測台数	備考
①綾部PA(あやべ球場)	綾部市	高浜町、おおい町	約1200~1400台/時	1,342台	1,115台/時	京都府内の 設定候補地
②長谷運動広場	南丹市	おおい町	約220~240台/時	426台	402台/時	京都府内の 設定候補地



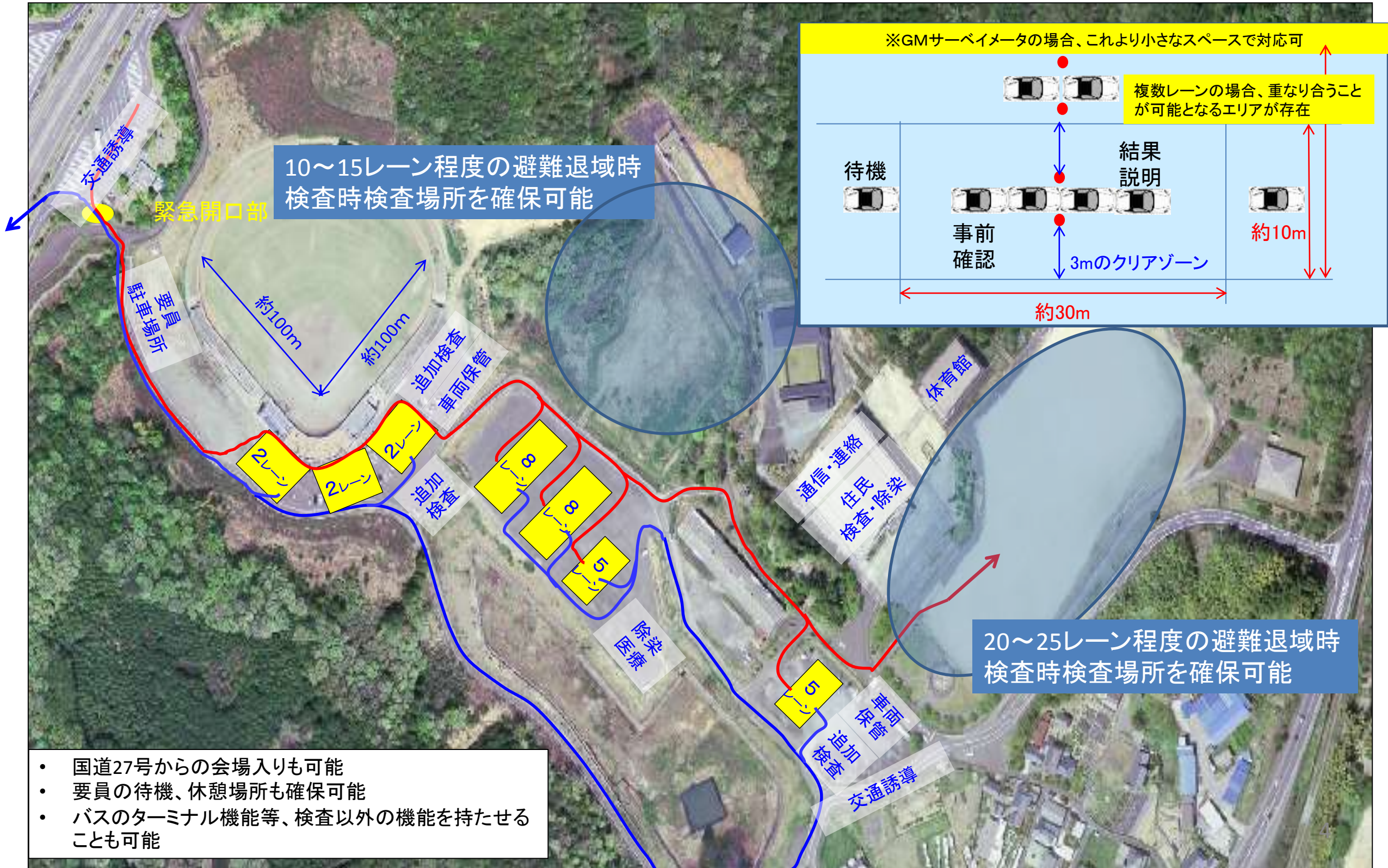
# 避難退域時検査・除染場所の実施体制及び主な機能

- 避難退域時検査等を行う際の体制、役割、及び標準的な要員数をもとに、追加設定候補地における想定の実施体制は以下のとおり。



# あやべ球場におけるレイアウトイメージ

- あやべ球場では、敷地の面積等を考慮したところ、合計で60～70レーンの避難退域時検査の体制を組むことが可能であり、時間あたり1,200～1,400台の対応能力を備えることができる。



- 国道27号からの会場入りも可能
- 要員の待機、休憩場所も確保可能
- バスのターミナル機能等、検査以外の機能を持たせることも可能



① PA内から緊急開口部を撮影



② 側道から緊急開口部方向を撮影



③ 緊急開口部から野球場方向を撮影



④ 野球場駐車場を撮影



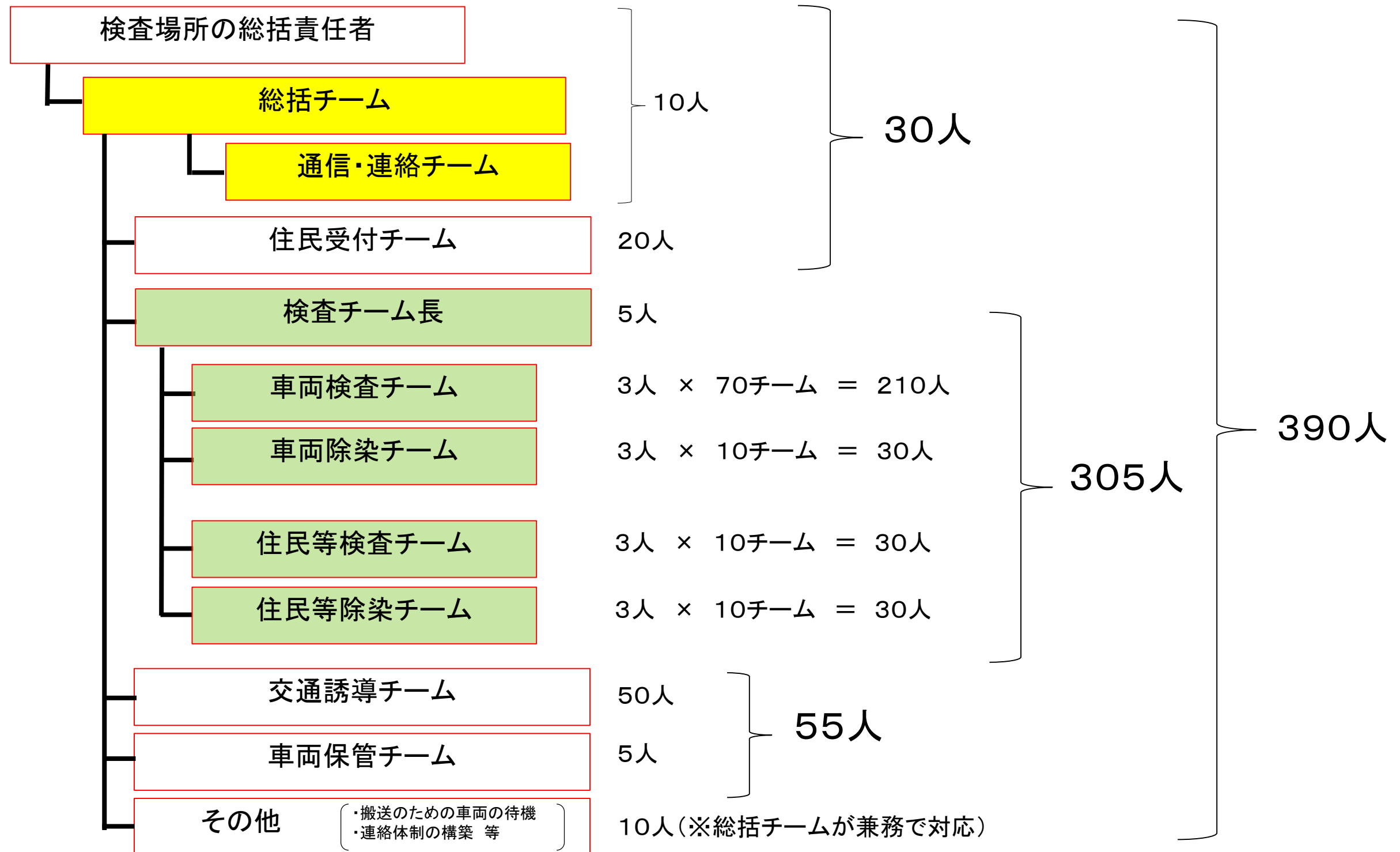
⑤ 野球場駐車場を撮影



⑤ 野球場駐車場(下側)を撮影

# あやべ球場における運用体制の試算

- 車両の避難退域時検査において、70レーン運用での検査に加え、除染(人、車)10チーム、住民検査(車両検査にて検査が必要となった者に対する検査)10チームを設定すると想定し、かつ交通整理などの要員を積み上げた結果、390人体制の確保が必要。

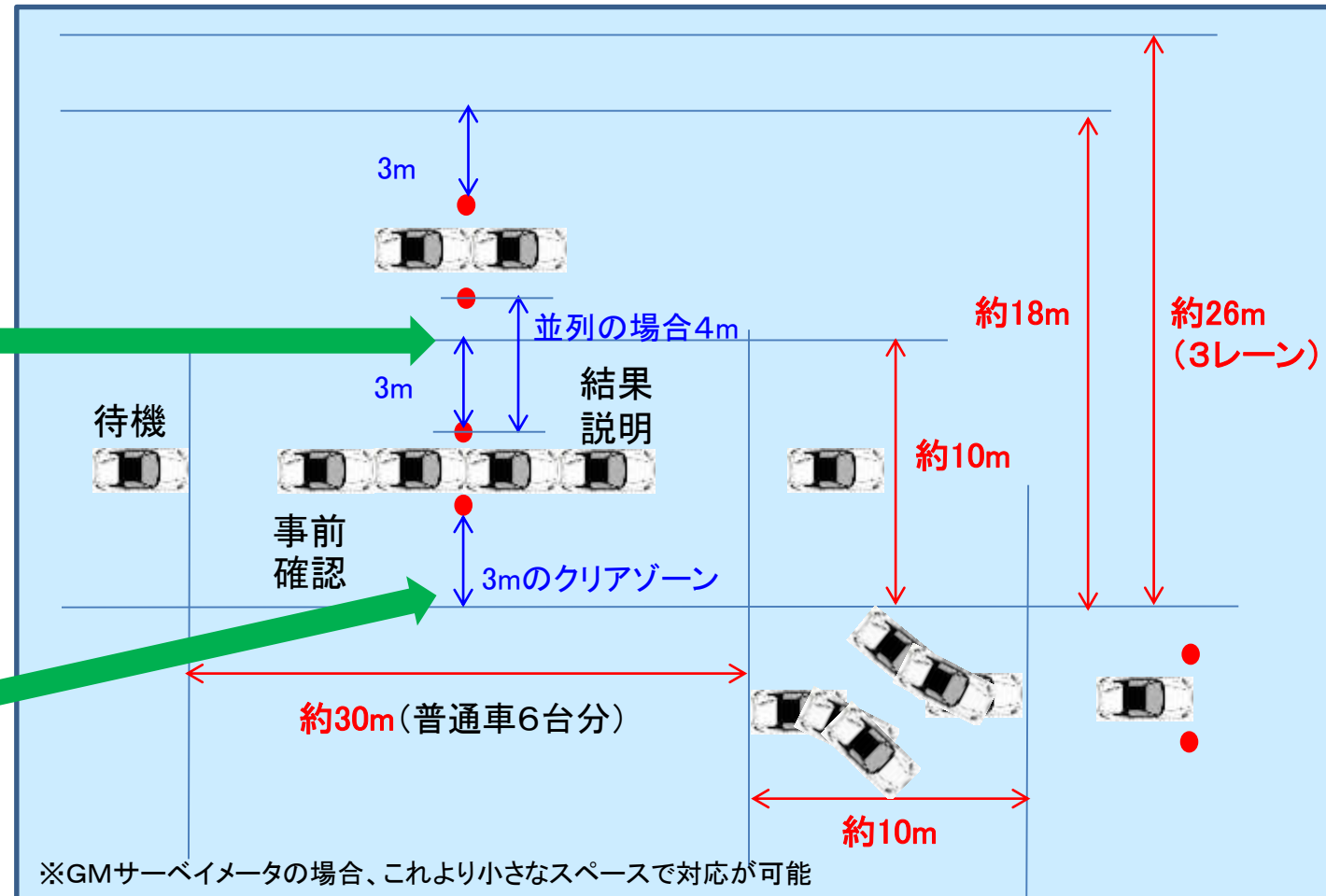


# (参考) 検査場所の対応容量に関する考え方① (検査場所)

- 避難退域時検査場所が緊急時にどのくらいの処理能力を持ちうるかについては、場所を多く取るゲード型モニタの設置を前提に、現場の状況や視察結果などを踏まえて個別に設定。

機器の間隔(クリアゾーン)を3m以上取ることで、他の車両の影響を排除することが可能  
※ 安全側に立ち4mと設定

車両ゲートモニターは、他の車両の影響を排除するため、他の車両が立ち入らない一定の距離が必要。  
某メーカーに確認したところ「間隔は、安全側にとって3mの」であったため、クリアゾーンを3mに設定



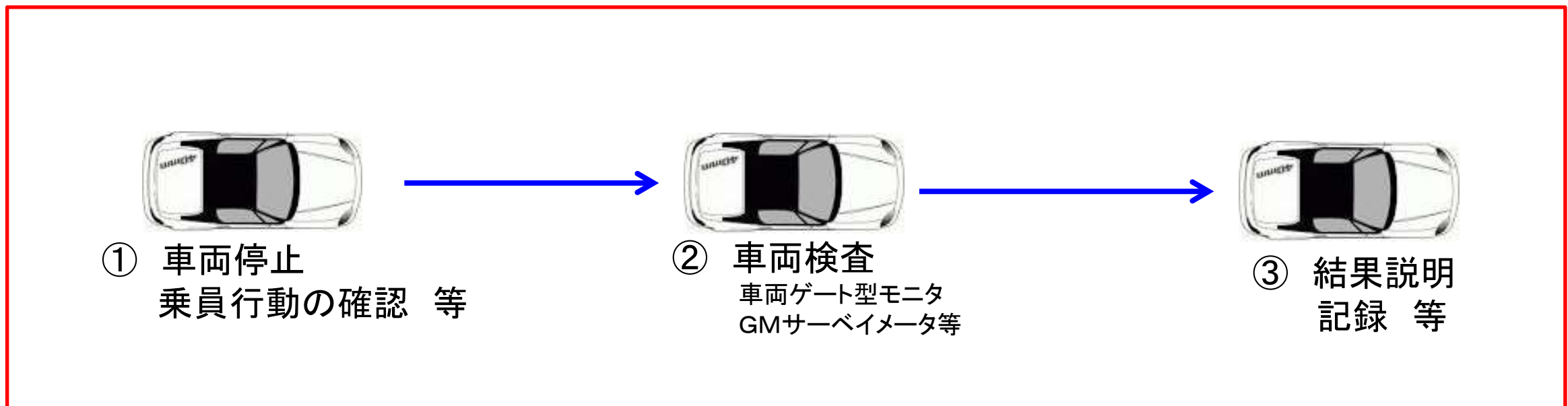
【検査場所】※並列設置の場合  
1レーン(30m×10m)  
2レーン(30m×18m)  
3レーン(30m×26m)

車両停止(乗員の行動確認等)→検査(ゲートモニターなら通過、GMサーベイメータなら停止検査)→車両停止(結果説明、記録等)の距離について、この区間は全て徐行であるので、車両5台分の距離あれば検査が可能  
※ここでは、余裕を見て車両6台分とした(車両の基準は普通車とした)

縦列配置の場合、車両進行(検査場所進入、離脱)のスペースが必要となる。  
ここでは、普通車(小型車)の最小回転半径(約5~6m)を踏まえつつ、余裕を持たせて条件を「10m」とした。

上記のイメージをもとに、現場確認の上、設置可能レーン数を決定し、避難退域時検査場所のクラス分けを実施。





上記の一連の検査について、約3分を目途として行うこととなる(GMサーベイメータの場合)

- 通常、前車の結果説明(③)の際に、後車の乗員確認(①)が並行して行われるなど、効率的に行うこととなるが、条件設定は「1台3分かかるもの」として算定
- よって、1台3分の場合、1時間あたり20台対応が可能であるため、  
20台/時 × 設定レーン数  
を、退域時検査場所の対応能力として設定。
- また、グループ化した検査場所を同時に設定した場合(解析条件とした場合)は、グループ化した場合のランクに応じて対応できるとの条件を付加する。